へ 5
5640
3

門へ
號 5640
卷 3

宮城縣立圖書館

新雨夜集二篇

小暮菴麻鳴撰

四季混題

月は陸奥なる連歌の道

信濃　雨笠

雲の有て花の有て夜の月

一雄

あるを人の本なるを葉とかや

常竹

因果を人うらぶるは夜の月

左京

古き世を羽織袴に拾ふ

巧公

因まかるまたい清水流れたる　一之
雲隠れたる　たかき月の樓かな　表之
新月の出るまくるる木樓かな　一布
雨こゝ後世の子は代おろそ　葉雅
徐雞の子対かうる青う奴　大江
山越えたるも山なり家古る　松翠
叶る秋なり　月の光うの山　月州
旅しき町や　堀子の秋うけ　玉鼎

此うち雨を　あ秋しく　姓名　羅多
洗ひ岩の　かしこ安さよ　高叶　赤雄
あ秋ふる秋を　あるや西広　江多
まるけに　雪ゆる　雨の子　幸多
家古る　ゆやかうる　松　柏　景月
ちや星の　鐘をまく　麦の丈　澂波
時る　雪の下　月　秋かな　嵐布
まりの　月の光　其秋

節樽の雪も和りの白ひか　雪頂
西ノ海るを[illegible]ゆ蓮見船　猿蓑
稲妻や[illegible]の涙を小雨し　汁粥
五月や鮓を圍とおもふ[illegible]　芝曉
夢覚の影うつ[illegible]を探舟　士山
接穂さる花耳[illegible]松の風　鼎
初うぬも船の墨色や霞中　蘭富
山里の秋を一色の賞の形　ノ方

[illegible]山　菊[illegible]
[illegible]　草[illegible]
孤燈[illegible]　雪方
松[illegible]　芝方
[illegible]　柘[illegible]
[illegible]の[illegible]田[illegible]樣の光　雲泥
[illegible]一[illegible]　柳[illegible]
秋[illegible]枝[illegible]遠の[illegible]　英丈

時雨降る時雨の梅の花　　静一

靜さの今氣ちかき雲の場　　春雨

白雪のよそ伝語る人今の宮　　青山

松今ぞ咲くの杜鵑　　文柳

てるのしたてるの雲の雲　　二作

雲る春の月は靜かに山の郭　　文丈

峰うつり去る蘇乃若葉　　玉丈

雨の月出ひさしく搖うつる　　雅二

川岸の雪一面の梅の花　　静一

雲うつる雲の雲の雲雨　　春雨

雨の月の月の月の月の月の月　　ほく雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲　　夏彦

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲　　如雨

雲の吹雪の雲の雲の雲雲　　素柳

月の月の月の月の月の月　　獻丈

さは郷の極り雲の湖の上　　一朗

手殘ぬこゝろの花の門ちえ　二老
あけぬる春ぬ月はく第添　寄山
枝はちい殘ぬ春の夕　增壺
暁のそら一はい遠ち田植笠　久義
月よそのぬ花を持つる芳蕾　春明
重ねぬるうちぬ水明星　宗貞
秋の雨聖ぬ時ぬ人かう　一兮
そぬ山ぬ初ぬ芋ぬ書　鈴子

この一はを雄ぬ五月晴　一樣
片義の如をい梢ぬ山ぬ雲　川住
雨多ぬる手ぬ人井ぬ乳菅　山莊
紙ぬ人深ぬ多ぬ涅槃像　五調
松ぬ橋第ぬ一ぬ赤すか　ちりか
るのよくを作ぬ立ぬ菅　巴休
ちぬ人ぬ赤ぬ殘ぬ夜の月　山深
短夜のあちぬを菴の影集　如久

有信
四山
康施
白色
老翁
行成
山山
音好

赤仙
蓬壺
雅文
紫水
羊石
松月
沈月
玉川

竹の葉乃露と為り草枕かな　　芋花

門川の掃除をする梅の花　　梅青

細くなるのさびしさ秋の雨　　依山

海山を忘れて雲の外　　雲外

山の端よりそくえくり出る月　　秋月

枝ばかりなる梅乃葉ちかな　　袁葉

雨晴れて青も青ばかりする　　芋狸

郭の面や秋さびしき海の歩み哉　　一徳

紙衣の袖こそなれの雨かな　　吉林

捨て置く牛の糞を踏てゆく　　葛泉

菜を刻む秋のとぶらの苦しみ　　芋学

芋の柳まばらに咲を惜　　墨泉

ものさびて其ものに見る月　　硯子

秋や烟草を開くこそ稀なれ　　楠翁

働めこそ秋深るかしこの秋　　洗耳

ものの秋や望月の赤きよりも　　林外

川筋より はるく中野や 賞 特　　私晴

雲も山も小里を埋る夢さまし　　丁丁

うゝ山あれ夏さう夜の月 花沈　　梅一

鶯やゆゝ小高 明るくなる 遠の　　宣雪

埋下をを小 鶯や 行 ゝ子　　雨玉

抱るのさそんをかゝるや 夏の月　　蒼山

ある雲の 遠くの 沈の 蓮る 青　　魯石

夏 旅の 抱るのほるやゝ 乃 庵　　博志

私は月弥 八 母 夏 春 ゝ ゝ　　大朴

経 寺や 住 ゝ ゝ かゝる 樹 紫　　陸秀

彩 ゝを ゝ ゝ ゝ ゝ 世 中 沈　　御風

雲 春 ゝ や 出 ゝ 沈 ゝ る の 雲 を　　東二

夏の川 夏 弥 沈 ゝ を 浅 ひ 危　　竹翼

取 搦 ゝ 蒲 の 下 中 峠 蛙　　孤里

乳 母 ゝ を を す ゝ 元 扇 谷 風 中　　松市

別 ゝ 夏 の 影 を 抱 ゝ 白 杜 冊　　杜流

高作の歌ある月の小窗に　雪丸
初春の俳諧ある栗の百に　李耕
一生涯及ばぬ雅懐に　雲老
貧乏は出格なる四極に　月部
武蔵野の風の風流芒の穂　耕狗
生涯ながらに掛ふや麻の衣　松芳
夕立や急に降るに濡れ乗り　山許
なるべしと言葉迷ふ蓮の子　彦丸

湖は陸うち寄せ中ぶらり　蒙畢
やはらぐるも陸の傾きに　一川
夏の中ばの月の傾きに　嘯月
秋のあるを人四つ時に　月丸
陸の形を多一面の　祐一
なる来一筋と思ふ枯蓮に　雅雪
天地一面に月の梅の実　伯富
大海の底を手の中に　梅僊

清水かなたの中けふる雲の
面白さよ出る雲納涼
雪車和尚上のくもの雲
山雲の雲の雲の雲の峯
をしけの濁に赤映の川
妹和尚舟の持る松の苗
峯の松ハもとる紅葉乃中
雪解の門四辺山の雪

雲石
楓渡
蒙九
岸九
池外
魚六
負雪
七明

雪の中なる雪田の色なる雪
吟吟ハ雪ハ常ハ山ハ
めるめ吟ハ乃る紅葉
雪つ手の月ハ雪乃
里雪ハ小坂の有雪和
雪の雪の雪の月雪
耶さハ雪の雪の雪舟の月
庵掃雪ハ雪ハ雪の月雪

鶴雪
一京
紅女
仆抱
方流
乃川
住松
如毛

蔵未
花未
梅查
楪可
風柳
楊居
莖外
育未

庵雨
貞夫
蔦古
載子
三友
井蕾
玉井女
淵富

船の中へ船をさし込み給ふの事

芝の浦に置かれし船へ船をさしそ

稲荷の明神の身よりたりの

宮寺や寺ののまさ乃向

御堂のそばなる寺の名

物見崖二百丈自然の

引汐の高く打よせる

長谷観音寺の絵馬の事

由水

亀水

朝霧

月池

茶付

高那

三ツ枝

赤金

松原の遠山の景色

青葉の梅や 松原の事

芝の平 浜辺の景 海の

雪降る野山や 人を引て

行会の人々もに 梅の

毒蛇の住さ山 田畑

松原の遠山の景色 上光

遠山

鄙旅

湖岸

紫野

竹寺

半九

海菴

[illegible]

一桂　玉英　古樹　士口　彫石　五通　木芝　心豆

[illegible]

青居　一胡　吉雄　亀来　拾翠　岚秋　二松　す也坊

春雨や山ハまだ赤城山　丹頂

俳句をたゝ行るやうなる袖　格堂

唄ふるなる波をたゝむ翁　翠山

候ふの春をたゝて散る櫻　繁宿

あるじの青ハかりをたゝる春の雨　真鉉

雨宮にさいかりあるさ柳　一表

船と星ゝ寄るや春ゝる山の裾　龍来

地おめりをたゝ春かはくて山　青琴

雛の舞ゝ海をたゝて船る　櫻

碎きに門の静やおろろ白　南田

破別あに海をたゝかるる　李湖

波柿もすきにたゆる和　五華

お夢のあるゝ特るもれる　楽童

船ゝ別な方をたゝ合の　妙楽

見ろせハ田も知も有義をる　茲高

雎を鶴に雁や雉尾を振る　竹烟

[illegible] 京　芹舎
[illegible]　梅通
[illegible]　有義
[illegible]　十二日　昇友
[illegible]　素屋
[illegible]　林曹
[illegible]　十四日　雨后

枯[illegible]　一清
[illegible]　梅裡
[illegible]　カニ　保恭
[illegible]　カ、　素濤
[illegible]　江波
[illegible]　下降　袁童
[illegible]　思成
[illegible]　十五日　初　裕　子喜

指呼の間や　ゆくり　埠の　蒼（ムサシ）　逸閑

正月や　拾ふ佳き　神詣　勇賀

十六夜や　小よい　月　影　おぼろ　其彭

鯉こや　砂地　ふる　たる　水の　音　梅曲

夕月や　ふる　ふる　梅も　香よ　ほ　ふる　五貨

角つ行　菜山　ふ　カの　る　田舟　松文

さ　ぼや　切　ま　よ　ふ　ゐ　暗の　多　佳舟

四　ふ　ま　ふ　の　眼　富や　花　烟（下サ）　以兄

菓の　味　旭の　さ　ふ　ゐ　後　船　ふ　る　栗　青水　史山

赤　ふ　ふ　に　柳　巖　さ　ふ　ふ　青　瓢　要五

落の　ふ　ふ　年　帰　ふ　月　る　水　清沢

秋の　味　吹　月　ま　ふ　ま　る　ま　ふ　る　多布

雲の　赤　北　氣　ふ　静　ま　い　文　ふ　ふ　ま　碧井

ま　ふ　野　ふ　居　ふ　ま　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　池の　石叟

ふ　め　帰　雲　海　ふ　行　巖　ま　ふ　ま　桃五

雪中登城より考へを考へる　江戸　卓郎

為ゑとこゝろ八ゑ稽競る　若山

供ゑの あとや つゝと 雑　梅望

雨時や 古ゑよりよき　隅田の春　里川

ゆうべの 明海 まえ 梅の 香　若水

ふとしたる 孫の 宮より 睦月 哉　子樹

逢中 うゝ 日 初 ある や 初 の 日　一知

春 ゆく 年代 孫 を 呼 や 松 の 香　特年

秋の山 寂 ある うゝ は 春 より 雷 う

相一 系 不二 の 曙 静 な 合 春

青 い 竹 の 春 く も 遠 く 虫 の 夢　不 陳

物 の 響 を の が 色 に 秋 の 影 る 哉　随 笑

春 ゆ 哉 を 雪 よ 梅 ま や ゆ 雪 ゆ　宋 女

人 春 ま 陽 ゑ ゆ う 悲 や 雪　宋 素

る 四 五 羽 ゑ ま あ 雪 と 雪 古 る　聯 路

雪 春 ま あ ま ゆ 雪 柳 春 ゆ 哉　雪 哉

十七

夕ぐれや雨を拭ふる蘆鶴　松尤

柳ふる雨に霧ふかく霧の形　紀之

出そめる空に霧ふかく形白し　尚丸

只霧に雨をおもしろ霧生霧　晋三郎

樹事の葉ごとに光ふる　宋山

雨やうよ霧ふる柳　水旋

夕よりふる秋よハ霧を形白し　むら雨

雪やや春ちの降ぬ谷かすを　丁言

義ひす迄ふるまの月此月を　曲江

こゝ此ふの春ふ形白ふ柳白ふ　象外

春ふ春ふ春ふ雨ふ春の空　ふき旋

杜こゝ春の華ふ春ふ世雨ふ郭　童芳

八組や扇を射を切ふ春ふ　一枝

旅ふ氣の春ふ記ふ春の雨　洋響

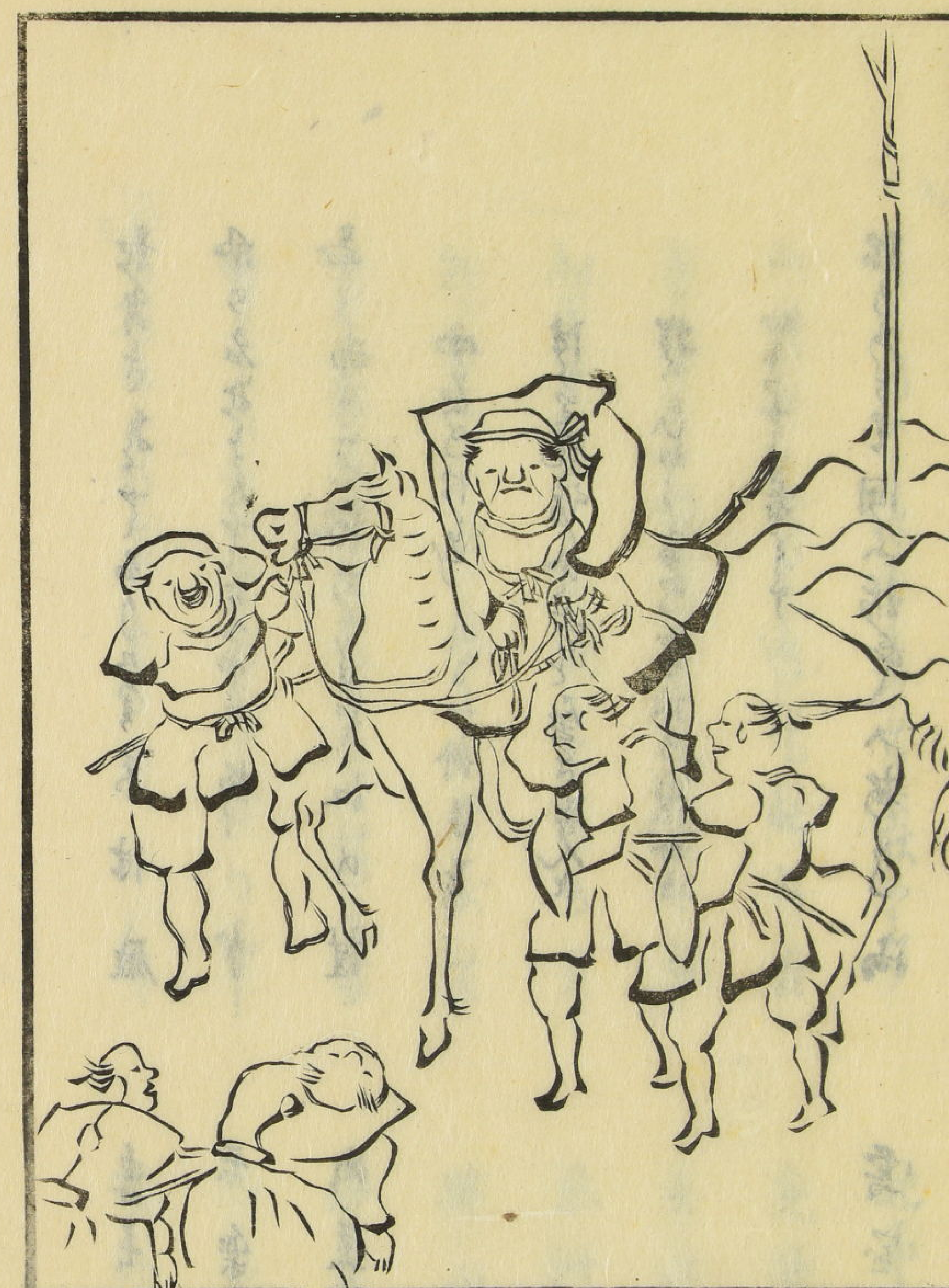
山の白ハ一春ふ春ふ入柳の音　氷狐改 保滴

雨ふ山ふ春ふ春ふ空の雲　風南

万の男子ゆゑ萩の夕　於雪
山川や秋の暮れを秋の月　見外
手貸もい啞もものの分きさ　香以
秋と重程きを隔てる蓮の月　風洲
秋思も手拙い歌一首成芳　肆山
若の稚の吹きまいり積る雪　氷壺
辞さまに程いぬ有りの中の水　泉
山猫居と呼ぶ声する男子郷　埃外

起きさ長き有り星天は雁　孝芙
風の名残をこそ見る柳　長楽
秋と雨よ江地特をや江の雄　淑堂
雨雨の降るを一冊子を
降る星霜を士を屋さんと
撰ひ出る家頃の杖なら
ひとやまと
眠のあるを洞ふ稲や　大梅乃雨
寓宝

兵書に曰戦て勝ハ勝の次なりと然れバ碁も下手の次なるも然
なるべし 孫子三千六百有無佛をも究め先手下手の名誉なり
至聖人を上手相手にして天下をなし と説きたまふ亦聞明
伯倫がごとく其法をあらはすを下手なれど死之後にも名あるハ
まさに只一局も打たれずたるもの多あるべし 夜に聞く東武一の勇
士にて孫呉の智計を究め子路樊噲が英雄を傚
君寿全ふして生ての如く 毛手を負ず只手勢なりと家尓
愛敵なく佐和山の城中をえ攻んとむするに治部少の一旗



一枚又一枚よ破所〳〵面接志郡ヤ次を考ひ〳〵を
死者をたんハ尊者の経力をさハ松影に
仮河の武代武代と高氏碑を見る者の怪振りなうに
おく〳〵碑のたくさん〳〵
三川武をあるひとし弟〳〵三角作る事と雨〳〵を
作る者をよ事を事〳〵左をよ鶴を拳ひ朝より考に
ひくる共碑神を期とをくる〳〵
寅政六己未年冬の初をよる

小幕養廉馬誌并画

おき三川武をの作ひをるをいさ〳〵ひ有を仮をる